



信州大学 山岳会

# 一目次一

- 2 プレ冬行動記録 3 装備の反省
- 4~5 プレ冬合宿の反省・感想
- 6 冬合宿の気象
- 7 冬合宿の装備の反省
- 8 エッセンの反省
- 9~10 冬合宿行動記録
- 11~20 冬合宿の反省
- 21 会計報告
- 22~24 冬山個人山行の報告

# プレ冬合宿

11/20

義倉まで車で入山(一台梅池に留して置く)

猿倉 7:30 発

白馬尻 8:30~45 疊り 全く雪がない、まるで10月の様だ

沢を渡るのに一時間ほどかかる  
小道取付 11:30 雨 雪が全く無いため屋根に取り付かず幕営

11/21

朝から雨。尾根上の雪が全く無いため幕営不能と判断する。体が濡れてしまう  
事も危惧し、沈没。

11/22

22日の夜から冬型になり、ほんの少し雪が降る。雪がある稜線上を目指し、尾根に入る。猛烈な藪こぎになる。

起床 4:30 撤収 5:45~

出発 7:00 パッキングの遅い者がいる

下降決定 12:00 1950標高点の辺りにてリーダー会を開き、雪のある  
稜線付近までとも行き着けてもよいので、下降ス

白馬尻 14:45 15:00 発 疊り

猿倉 15:50 疊り

松本 19:00

今回の山行は、初めから調子がくるってしまった。まるで晩秋の山と言えるよ  
んな、まったく雪の無い風景に唖然とさせられた。

プレ冬合宿は、SAC暦の上での年中行事ではなく、一年生のための雪山入門  
体験講座であり、冬合宿を前にしたパーティーの力を把握する前哨戦であると海  
う。結果的にこの様な形になってしまったが、猿倉に着いた時点でもう少ししま  
う。な判断ができなかったものかと反省している。

プレ無しの冬合宿は、皆気合いを入れる必要がある。また、ブツケ本番である  
という自覚が必要だ。

3年 長谷川哲也

パン屋 装備の反省  
短期間だったのでガソリンの消費量など調べてません。  
初めてテントごとのエッセンにしたが、問題なくうまくいった。

(担当=松本)

参考文献

# アレ冬の反省と感想

アレ冬合宿の反省と感想 松本穂高

雪山のつもりで行ったのに雪がなく残念。2年生として  
パーティーをよく引張っていこうとはりきっていたのに拍子抜け。  
生活面でも夏山と変わらなかつたので、特に反省点はありません。

## アレ冬合宿の反省と感想

合宿前までは冬山に対する期待と不安でいっぱい  
でしたか。山に入ると今年は雪がせん  
せんなりといふことで、冬山の練習みたいな合宿  
だったのでもとも残念でした。

伊藤利信

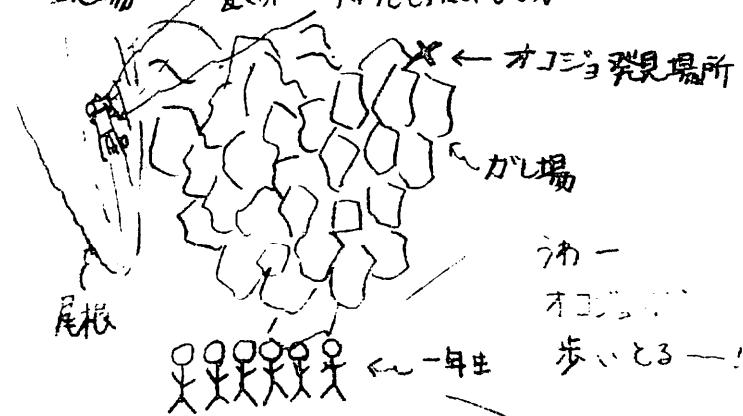
冬山に対していろいろ平安もあたけれど、残念ながら雪がなく  
何も知らない身の出来ぬままの下山となつた。  
ただ個装の管理にしろ合宿に対する構えにしろ、この時  
雪があったなら、私は大きな失敗があつたと思った。

上山 施設

## 反省

はうだ

雪もなくピーカもうめず、雨にたたられ、肩すかしを  
くわされた感があつた。改めて人は自然に対して無力で  
あつたと思つた。印象にのこつるのは白馬尻付近でオコジョ  
らしきものを見て、次に、黄ズットを丸めてザックの上にひいて  
歩いていく人の黄ズットとオコジョとがんろがにして、「うわ、  
オコジョが歩、とる!!」と言つたことである  
—現場— 黄ズット ザックもたおじさん



ルビノ

反省 雪じやくはく（雨でも雪）に。予想（いのちよ）が  
外かたつので、雨に対する備えが十分でなかった。  
個人的な作業がおととい、荷物の整理や「ツキ  
ニク」がおとかた。…行動中…やる、「こぎ」になれ  
てなかつた。アイセ"ンにつまつひてこけた。

感想

雪がなかつた。しかし山はあつた。

道はやぶやぶで進むのかおとがた  
途中で引き返した。これで帰れると思った。  
白馬尾から白馬の棱線が見えた。

まっしづな白馬を見た時

行きたいな。と思った。

雪はなかつた。しかし山はあつた…。

ル冬の反省、感想

雪が全くなく、全晩にならなかたのは何故。（高橋）

1年 吉田政隆（現一先）

白馬岳はその日…、秋山だ。た。

今回の反省点は二つある。1引出先致命的缺點である。

1) 忘れ物

→筆記具（メモ帳やノート）

→コンパス＆地図

→大型のストップバック

etc

忘れてこのままでは、島ヶ原を逃さないといつた。忘れ物の原因は

忘れてこのままでは、島ヶ原を逃さないといつた。忘れ物の原因は

33.

身体的な面（コントロールも大事だが精神的な面（コントロールも大事）

がない。ましてやハイテク登山で登山がある。ひそかに左脚が

なくしては、登頂する人の前に生存の危機である。

登山は、2度も3度もあれば必ず成功はならない。

# 冬合宿中の気象

- 12-23  
弱い冬型。常念から松本平に延びる尾根上は快適そのもの。終日快晴。
- 12-24  
弱い冬型から高気圧が張り出してくる。終日快晴。
- 12/25  
24日同様
- 12/26  
朝方から昼にかけ快晴。風が非常に強い。14時頃から次第に崩れる
- 12/27  
26晩からの気圧の谷の通過により吹雪。沈黙。
- 12/28  
冬型による風雪が強く、沈黙。気温は以上に高く、北海道でも雨が降る。
- 12/29  
冬型が緩み晴れ間が広がる。次第に高圧部に入っていく。晴のち快晴
- 12/30  
終日快晴だが、気圧の谷が接近しつつあり、風が非常に強い。
- 12/31  
深い気圧の谷の通過により山は大荒れ。沈黙。
- 1/1  
もの凄い速さで気圧の谷が去り、再び冬型。空は青いが風が強い。  
周期的に近い形で天気が変わって行った。比較的南に位置するため、冬型による影響はさほど大きくなかった。  
29日から31日にかけ、天候変化の周期が激しくなったのがやまつたのが以外だった。  
全般的に、良い条件だった様に思う。

気象担当 長谷川哲也

## 冬合宿 装備の反省

### ・ MSRをよく知る

火器がアスカラMSRにかわったので MSRをよく知らない人が多いかも。火器はみんなよく知っておくべきでしょう。

### ・キスリングを使う人はきちんと修理しておく

### ・ザックの外につける装備(ボーラーなど)にはシリジグをつけておく

### ・アマ往來無線を使うからは免許をとる

### ・消費量

・ガソリン 9L消費 9L残り 1人1泊 90ml

・メタ 54本消費 126本残り 1泊 約5本

・ローソク 2.5本消費 5.5本残り 1泊 1本

・ハーケン 残置、紛失 5本 (担当:松平)

# エッセンの反省 副担当 はうだ

朝食…適量であろう。(インスタント 10g×3/人)

・マカロニに関しては、過去の合宿を生かし(前回合宿60g 多、  
夏合宿50g少)、マカロニとマッシュを各55gとしたが、適量だったよ  
うに感じる。次の合宿でも参考にしてほしい。

昼食…多いといふ人と少ないといふ人が出たが、多かったという  
人の方が多かった様に思える。3日に1度少しきらいにするとか  
工夫がいるだろう。今回人氣があたあげせんとレモンパックはも  
う入り入れるべきであろう。

レシヨン…<sup>ほんの</sup>今回に限っては、少し量が多くてあり、結構に感じる  
いつもレシヨンは、いわゆる野性のカン的要素で選ぶ傾向にある  
ので、かたものを記録し、1つのレシヨン当たりの重さをはかり記録して  
いかないと、反省にならないと思う。

おやつ…空石値で体力を消費したことなどを多くもつていて、おやつは  
うすくならない様に心がけたが、結果として楽しい屋のひとときを  
たのしかめた。ちなみに今回のひとつの量は、1人1回に75g本計算した。

夕食…ルーを少し多めにして、うすくならしい様に心がけた。  
また乾燥野菜も多めに買った。ベジカンは奇数日に適量あた。  
結果として、山にいるわりにおいしい夕食ができた。火薙に関しては  
1人 0.8袋/人であったが、うくろのタイプでちがってくるので、行動日は  
1人 1.2袋/人 予備は 1.0~0.8袋/人を目安にすべきである。今回は行動日  
が0.8袋/人で予備日が0.6袋/人で適量であったと思う。

調味料…塩とこしょうが多かったのを除いて適量であった。  
これからは、どのくらいがたのかを記録すべきであると思った。  
備考

・エッセンをするのは主に一年であるから 調味料の量・種類・etcを  
事前に知りておくべきだ。

# 信州大学山岳会 冬合宿（常念岳～穂高岳）

メンバー リーダー：伴野達也  
サブリーダー：高橋敦  
長谷川哲也、三木隆一、松本穂高、伊藤利信、伊藤勇太郎、  
上山祐貴子、原田裕介、山内哲文

## 行動記録

12/23 8:30① 890m付近の橋 タクシーはここまで 新雪は20cm  
近い

10:50① 大平原 尾根の取り付き

13:50① 尾根上1600m付近 TS 雪は新雪が50cm程度  
昨晩の雪が積もる。積雪のはとんとは昨晚のものらしかった。

12/24 7:40○ TS

13:30○ 2024m 雪が深い。ワカンで腰までのラッセルが  
続く。

14:20○ 2000m TS

今日はラッセルに苦しめられ、行程が稼げなかった。

12/25 7:40① TS 相変わらずのラッセルが続く。

9:20① 三股へとの分岐点

12:10④ 樹林帯を抜ける ここでラッセルは終わり

14:20④ 前常念避難小屋 TS 小屋の中にテントを張った。

12/26 7:45○ TS

9:00○ 常念岳

常念小屋に向かって降りる途中、伊藤勇太郎のトスリングの肩バンドの  
皮の部分が切れたので、大型アタックザックに移し変えた。

10:50○ 常念小屋

14:00○ 東天井岳

15:30④ 大天荘冬期小屋

疲労の蓄積と強風のために隊のペースが上がらなかった。

12/27 低気圧の接近のため風雪、沈殿

12/28 強い冬型のため風雪、沈殿

12/29 大天井ヒュッテからF.I.X隊と本隊に分かれて行動

<F.I.X隊の行動記録>

6:50○ 大天荘小屋

7:50○ 大天井ヒュッテ

10:10○ 赤岩岳の核心部

F.I.X 7=40m+25m+9=50m+50m

14:00○ 西岳

14:05~15:30○ 西岳の下りにF.I.X

F.I.X 9=50m+50m+7=40m+25m

(本隊と合流)

16:00○ 2490mの西岳からの最初のコルTS

<本隊の行動記録>

6:50○ 大天荘小屋

7:50○ 大天井ヒュッテ

11:00○ 赤岩岳 核心のF.I.X手前で張り終わるのを待つ

12:00~13:15○ F.I.Xロープ180mを通過

14:00○ 西岳 西岳の下りのF.I.X160mを通過

16:00○ 2490mの西岳からの最初のコルTS

12/31 沈殿 ④

1/1 朝は晴機 ④ ~10:15 T.S. 発〇 ~13:45 槍平 ~17:00 新健高温泉

①

大喰岳西尾根を下る。尾根上は風が強く、キスリーナでは一年生にしてつらいと思ふ。上級生のアシスタントと交かしする。駿太郎君は左足が少し悪く、空身で歩かず。始めは少し遅れ気味だったが、後は普通に歩いていた。  
(高橋)

3△8

12/30 fix隊 L.高橋 三木

5:30 T.S. 発 ~6:30 水俣乗越 ~10:30 ヒュッテ大倉 ~12:15 尾山小屋

○ T.S. ~水俣乗越 1-fix 10m, 40m 40m 20m

水俣乗越 ~ヒュッテ大倉に1fix 15m

大倉 ~尾山 fix 20m

\* この日はラッセルがひどく、かなりあせっていた。張り方があまり難だたし、もう1~2P 出すべきところもあった。(高橋)

本隊 L.伴野 長谷川 松原 原田 上山 山内 伊藤(利) 伊藤(勇)  
6:30 ~10:25 ヒュッテ大倉 ~12:40 事故発生 ~宿泊小屋 12:05

本隊 L.伴野, 長谷川 松原 原田 上山 山内 伊藤(利) 伊藤(勇)  
6:30 T.S. 発 ~10:25 ヒュッテ大倉 ~12:50 事故発生 ~13:05 宿泊小屋

○ (12:50 L.伴野と伊藤(勇)が滑落、無線でヘリを呼び、16:30 伴野だけ救助され、駿太郎君は本隊とともに歩いて下山。詳しくは事故報告書を別に作成するのでそちらも参照。)(高橋)

## 993年度 冬合宿

まず初めに今回の冬合宿で事故のあったことを報告いたします。

### 事故の状況

1993年12月30日に北アルプスの槍ヶ岳の東鎌尾根を抜け、槍ヶ岳の穂先の下の南側斜面を槍ヶ岳山荘（肩の小屋）に向かうトランバース中、伴野達也と伊藤勇太郎の2名が殺生ヒュッテの方向（槍沢方向）に標高差で150mほど滑落しました。伊藤勇太郎はさほど怪我が重くなかったため、1月1日に他のメンバーとともに大喰岳西尾根を歩いて下山しましたが、伴野達也は重傷と判断されて事故の当日にヘリコプターで救助され信大病院へ入院しまして、1月7日に退院しました。

今回の事故の原因ですが、伴野達也は事故の少し前から31日の夕方までの記憶がなく事故がどのように発生したのかわかりません。他のメンバーは滑落した2名が最後尾だったために滑り落ちるのは目撃していますが、どのようにして滑落したのか見ていた者がいません。伊藤勇太郎も滑落する瞬間はよくわからないようですが、後ろに引かれるようにしてバランスを崩したと言っています。このような状況ですので事故の原因は推測するしかありません。

皆様に御心配と御迷惑をおかけしましたことをおわびし、御協力いただいたことを感謝いたします。

事故の詳細は事故報告書に譲ります。

今回の冬合宿は事故という残念な結果に終わったが、なぜ事故が起きたのかその原因をはっきりさせて今後に活かすことが必要だ。悔しいことに私は事故のことは全く思い出せない。とりあえず全員生きて帰ってこれたが、これでよしとしないように。事故がどのような状況で起きたのか、事故が起きてからはどうだったか、各自思い出して考えて欲しい。

上級生はリーダーの私が事故った後も隊の安全を考えて行動してくれて頼もしく思う。下山するまで本当に御苦労様でした。1、2年生も不安だったと思うがよくがんばってくれた。本当に皆には感謝しています。

今回の事故を通して登山の裏側で我々を支えてくれている多くの方々の存在を改めて強く感じた。周りの人達がいて山に登れるんだということをおろそかにしないためにも今回の事故を忘れないように。

伴野達也

# 冬合宿の反省

早い時期に予備日を3日も消化してしまったが、赤岩岳・東隕とフィックスが出て、ラッセルもあり、なかなか内容的には充実したものになったと思う。ただ最後の方に事故が起ってしまったことが非常に残念だが、他の者もこの失敗を他山の石とせず、真摯な態度で受けとめよう。

自分としては今回のこの合宿は2年生のような気持ちでした。ケーキも持ったし、ラッセルもがんばったつもりです。

反省点として、今回丸い歯のアイゼンをもっていってしまったけど、たとえ競走でも、歯を研いで行くくらいの慎重さが必要である事を、痛感しました。

3年 長谷川哲也

## 反省、感想

今回の冬合宿はまず計画段階で問題があつた。春にトレースしたことのある者がいたのでそれをうのみにしてしまった。実働をもう一日ふやすべきだった。それからテントをかまうや、エーカンのやりかたをかえたりしたが、特に大きな問題はおこらなかった。しかし、まだやり方が完成されているわけではなく、改良できることもあると思つ。

また、今回の合宿は滑落という遭難が起つてしまつたが、幸い無事で何より良かった。合宿それ自体は仲々充実していたので、またこういう合宿をやりたい。個人的には、事故のとき、縄梯何もできなかつたことと、一年生のことを見ていなかつたところが反省だ。（高橋）

## 冬の反省・感想

二木

(事故以外のことについての反省) 一度同コースを走ったことがあります。気象も特に変わるものだったが、上級生だけのペーティーとは違い、かなり難しく思えた。また、慎重に進まなければならぬ場所、ペーティー全体の斧かごど見極めにくくことが多く、思うほどにはすさまじい日の方が多かった。

(事故について) 直接的な原因は風が、ザックの肩ベルトが突然切れたのが不明だが、現場では、直接見たように、轟きがり倒したら止まらない。場所だったのは石壁であり、ズックを張るような場所ではなかったのかとも知れないけれど、何か考えてもよからぬのではないかと今は思う。山をはじめて間もない一年生に山川鬼いとさせて、残念です。

(感想) 忘れたころに事故はやってくる。ので、そこそこと注意に用心深くなることは、考へている所で事故ってほんたうで、何ともハスナリ感じです。幸い、みんなで安全運転で安心して汽車に乗車し、気を引き出でいきました。

しかし、年末と正月のヤリはあんなに長いものには思ひませんでした… 知つていれば、機ピストには日程1日+予備1日が必要と思ったことでしょ。

## 冬合宿の反省と感想

松本 魁高

天気には恵まれた山行だった。危険なところはみんな緊張して歩くのでかえってけっこつ通過できるもの、気を抜いて油断したときが危ない時ということ、僕が常日頃思っていること、みんなに知ってほしいです。

2年が1人だったので何かと苦労したが、まだ末だ役が果たせなかつた。

## 冬合宿の反省と感想

反省点のまず1つめは火器に対してとても無知であり、 MSRをもっとよく知りどんな状況にも対応できる知識をもつこと。それでテントの中で火器を扱う時には特に慎重に行動し、テントや装備を燃やしてしまわないようにすること。

次に、アイゼンをつけて歩いた時は常に雪面に対してフラットに歩けるようにしたい。

感想としては自分ではよく歩いたなと思う。もし大天井での沈殿がだからたら、僕はつぶれていたと思う。

槍ヶ岳のピーカに立てなかたのは腹惜で、たけど、終始みて乗籠尾根をわけられてことに満足しています。

伊藤 利信

フレ各も冬合宿前の個人山行でも冬山に対する不完全であるため、やはりとても不満だった。

自分なりに努力したつもりだが、失えた部分も多くとても重苦しいものだ。いろいろ私なりに高い高い聲もあるのだが、今の自分じゃ言えそうにない。

槍の頂上に立てよう。に私は私にとってとてもいい事だ。

私は今まで心から「〇〇のピーカに立ちたい」と願った事がない。

山を好きである人にとても失礼だけれど、「山が好きか?」と聞かれてもうなづく事は嘘になる。登らうれているという氣持ちはないが、願望した結果でもよい。山行の前日は筋肉は暗くなる。でも帰ると樂いと感じに思ふ事になる。今回冬山に行って、本当に槍の頂上に立ちたいと思えた。いつものようにやはり最初にして良い。たとえがに。

上山 稲葉

# 反省 はらだ

・アイゼン 不可 (4単位)

歩行中にアイゼンがすれた。二度とされない様にする。

・個装整理 不可 (4単位)

トイペがなくなた。自分の個装はきちんと管理する

・天気図 不可 (4単位)

書くのも下手でよむのも下手だ。冬山は天気が大事だから詭める様にする

・はきり言て疲れました。だけどじんにつかれていても、ふたんと同じような状態を保てるような精神力を身につけないといけないと思った。

## 冬合宿

反省 歩いてる時 歩き方がいい加減だった。おちる~~こと~~ことなんて絶対にないと思いつながら歩いていた。もしかしたら自分がおちてたかもしれないという時が何度もあめついくから心配りとしてここへからこれからは気をつけて歩こうと思う。エーセンや設営、トレーニングなどはまあまあよかった。高層天気図が今だによくわからぬ。

感想 今年の元旦は山でした。元旦とうとう強風にぶかれていひひーひって山を歩きました。なんて正月やっと思いまして。でもとても充実してた。1日でした。新穂高温泉に有った時「ほんとうによかった」とほらの底から思いました。

「正月はこたつに入りてみかんくって年賀状みてテレビみる」のが義務な!だと思つてる人が多かった。しかし、さうみんながすることはないものなんでしょうか。こたつはいってテレビみて「ほんとうによかった」、と思うこと~~は~~はできないです。正月はけじやないです。「春はテレビで夏休みは海へりて冬はスキークリスマスは彼女としたり」と、うののかい大学生の義務だって思ってる人がなんて多いだろ。それは確かに楽しいことだと思ひます。ここで~~と~~とれど「ほんとうによかった」で心の底から思うことができますが、それでモヤツよし「彼女かいほい! スキーしてー! うふああーー」

冬合宿には参加できなかたが、4月から~~は~~先輩の春板をしきで取る。今日の山行…モルヒネまでの山行を石井し山とは命か生きると繋れる人間になりたい。

先日、OBの方と伴野さん・高橋さんと豊科警察署へ行、た。ヘリコプターなど遭難にかかる、た費用と保険で保証してもさうために、この保険会社へ提出する遭難証明書あたりをものとさういふに行くためだ、た。以前、冬休み中に両親と訪ねたことがあ、たので、この遭難の担当の一色課長とは二度会、たことにな、た。この課長の話によれば、こういふ冬山遭難で無事なのはまれな例で、正直などいふ。二の課長自身もヘリが飛べないと思、て、いと伴野さんのことはもうだめだと言ったのでいたそうである。事実あの日 $\frac{1}{30}$ にヘリが来なければ $\frac{1}{31}$ は悪天だとこういふ無理だ、たし、次の日 $\frac{1}{1}$ も視界は悪いし風も強か、たのでヘリは無理だ、たたう。そろそろと自分で下山ということにな、といったにちがいない。伴野さんがヘリで運ばれ病院で治療を受けた時は、出血が多く血圧がさうとう下が、たたうだ。こう考えると30日でその状態だ、たのだから、一日休憩し、次の日無理に下

「いつも助かるかどうかわからなか、たと思う。ましてや肩の小屋まで伴野さんを引き上げようとした時にあれだけ人数がいてもみんなに大変だ、たんだから萬丈の中下山でまたかさえあやしい。

死んでもおかしくなか、たんだ。警察からの帰りの車の中で何度も想いがえしてみた。自分のせいで人が死ぬ。極端に言えば殺したこと、ともおかしくない。よく二二一スズ耳にはすら、人命を援助するため、援助者自身が失くなってしま、た例。なにげなく見てみると、自分は援助する側だと思っていた。しかし今、自分は援助される側の立場なのである。山での遭難、交通事故等々たくさんある例を本ヤテレビ、その他いろいろな所で目にし耳にしてきた。若い生命が失われ、残る大家族は、我が子を失、悲しみと事故とか、た多額の費用の返済に苦しむ姿が目に浮かぶ。現に信大山岳会でも4年前に死む事故があり、たては幸いが、 $\frac{1}{30}$ の時の時に、アリガ来なか

つたり、打ちでこうが悪か、たりして、伴野さんが死んでしまった。伴野さんは家族には一生かかるても罪をつくなえみわけではないし、二の失す、と悲しみと罪の意識を負、これまでゆかなければならなくなる。もうなる可能性は充分な、たのだ。

今回の合宿で、遭難や死というものが他人事ではなく自分の身にいつでも起らり得るんだ"ということに、月並で何度も耳にし、されど立派に感じ、実感し、身をしつぶすことばかりきたと思ひます。自分の不注意でこんなにまで多くの人々に迷惑をかけ、また人と死なせてしまうことさえあ、たかもしないんだ"と気づきました。そして、何百万円といふ自分ではどうしようもない高額のお金がかかるということもありためて気づかせされました。また、自分は一人で好きか、これに生きているのではなく、多くの人々、それも一度も会ったことのないような人々の援助があるからこそ、山に行けるんだし、普通に生活

で“主さんだ”といふことに気がつかれました。  
 ある日、普通なら飛ばなかつようない強風の中、何度もヘリが落ちている殺生セコットに危険を犯して飛んでくれたパイロットの人は、せ、かくのお正月休み中に、わざわざ貴重な時間をさしてくれたOBの方々や学生部の方々や現役留学生の松沢さん。冷静に行動し、つかれて川まにもかからず、何度も肩の小屋まで往復し、小屋の中では何もしないでシニシノにハッとしていた、この、この、  
 山の時には、僕がもう荷物をみんなにわり分け、重くなつた荷物を何も言ひなつて運び出してくれ、肉体的にも精神的にも駄目でくれた先輩や一年のみんな。下山後下りじまうがた、たかと、声をかけてくれ心配してくれたたくさんの友達、そして、自分の生命を危険にさらしてまで自分でようとしてくれた、大伴野さん。

本当にありがとうございました。

今回学んだ多くのことを今後の山行に生か

していこうと思ひます。心のゆゑ外、裝備の不完全は直接遭難に繋びます。何でも死に得るものでないといふことに気がきました。一度もこんなことは二度めんです。

冬合宿 会計 中間報告

三木.

① 収入:	233000	$\begin{cases} \text{一人} 20000 \times 10 = 200000 \\ \text{旅費部費より} 30000 \\ \text{亮君より} 3000 \end{cases}$
② 支出:	(仮) 104316.	$\begin{cases} \text{装備} 58446 \\ \text{エヤセ} 17345 \\ \text{交通} 55780 \\ \text{その他} 2745 \end{cases} \quad \text{③ 2523. 9000 円.}$
主な項目		
装備	$\begin{cases} \text{ラジオ} 7416 \\ \text{ハーネス} \times 4. 4666. \end{cases}$	ラジオ 購入、一あたり 5103 円.
エヤセ	$\begin{cases} \text{帰路ベンツ等} 10890. \\ \text{山行中 メー盼あたり} 665 \end{cases}$	
交通	$\begin{cases} 往 17360. \quad \text{タクニ一代.} \\ 復 38420 \quad \text{新木戸～松本へのバス, 電車.} \end{cases}$	
その他	$\begin{cases} \text{病院往復費} 4500 \\ \text{電話代等その他} 1295 \end{cases}$	

残金 15236 円.

[会計について] 入山時のこともありまだ完全ではありません。ハナタ君、金持つかえているところですね。連絡をください。~~大量~~を購入したのは誰ですか。ほかに連絡ください。領収書がありません。他にも領収書を出していい人ははなべ出してください。これから、ヤリの肩の小屋 1 柵  $(1000 \times 9) \times 2 = 18000$  についてはまた次の検討の中で、今後 会計時に集めます。何らかの対策をします。

会計最終報告は 協会、または次回報告書にてさせていただきます。

# 冬山個人山行

富士山 12月4~5日

<メンバー> 皇田(0B), 松本, 伊藤卓, 山内

<行動> 12/4 五合目佐藤小屋 9:35○ ~ 7合59BC 11:55○ 雪訓 BC 15:40○

12/5 BC 7:35○ ~ 山頂 9:56-11:10 (木崎通り)○ ~ BC ~ 五合目 14:25○

<感想> 雪訓はピッケルストップ, コンテ, スタカットをやる。

救助隊が常駐し, 登山者はたくさんいた。上部でも夏道をたどることができた。雪はクラストしておらず積もっていた。

山頂は風が強く1年生は耐風姿勢の練習にならなかったでしょう。

十石山 12月11日

<メンバー> 松本, 松沢, 原田, 山内

<計画> 白骨温泉 ~ 十石小屋(泊) ~ 往路下山

<行動> 白骨温泉 9:30○ ~ 2320m付近 14:40○ ~ 白骨温泉 17:05○

<感想> ランゼルが非常に早く1時間で2~300mくらいしか進めない。どんな山でも冬山である以上あなどってはいけませんね。わがんは持ってきてました。

鹿島槍 赤岩尾根 L.高橋, 三木, 上山。

12/1 7:20 大谷原 ~ 9:00 尾根取付 ~ 14:30 高千穂平TS. ○ ~ ○

12/2 7:30 TS. 発 ~ ピストンしようとすると雪が深くすぐあきらめる ~ 8:30 鹿びTS発  
~ 11:30 尾根取付 ~ 13:00 大谷原 ○

今回は、山に登る以前の問題がある。MSRをよく点検せてもいい。たぶん火がよくつかなかったこと、直前に火へもどされたことである。また、昨日の雪の異常に小さな雪の印象が強く、わがんも持っていないがたことも失敗だった。この山行についてはこれ以上何もいいたくない。(高橋)

# 八ヶ岳 氷

日時 1994. 3. 22 ~ 23  
メンバー L. 松岡清司 (碧穂山岳会) 長谷川哲也  
記録 21日

0日を使い、諏訪ICで松岡君と待ち合わせ合流 24:00  
車で美濃戸山荘まで 深夜1:00

22日

起床7:00 ⇒ 美濃戸山荘発9:00 ⇒  
赤岳鉱泉BC 10:30 ⇒ 設営後 ジョウゴ沢へ  
F2 20M III+ 右俣大滝 (L.松岡) 20M IV+ 吹雪  
BC帰着16:00

23日

起床6:00 (寝坊) ⇒ BC発7:30 ⇒ 取り付き8:30  
かなり雪に埋まっている。出合からすぐの3段の滝はフリーで越え  
核心の滝から登攀開始。

1P III+かIV-程 (下部が埋まっているため) L.長谷川  
20M (氷) + 25M (緩傾斜帯)

2P II+ 3P 3段の滝 4P III

基本的にツルべでゆく。途中コンテが混じる。

終了 11:30 吹雪

石尊稜方向に登り、稜線に出る。視界が悪い。 ⇒ 地蔵尾根 ⇒

14:15 BC着 撤収後 15:10 赤岳鉱泉BC発 ⇒

16:00 美濃戸山荘

感想 三叉峰ルンゼは特に下部は埋まっている率が高かった。12月下旬か1月上旬がベスト。けっこうお手ごろの滝が連続し楽しいと思う。ただ、緩傾斜帯の傾斜が結構強く、コケたら降り出しに戻る事は間違ひ無し。用心が必要。残置ピトンが結構あるが、あまり信用できないものが多い。支点を作りにくいところが多かった。

松岡・長谷川コンビは敗退が多かったが、久々の成功に充実した山行になった。22日のジョウゴ沢と、氷に触れられるチャンスが多かったのでとても満足できた。強いていれば、三叉峰の氷が全て露出していく欲しかった。松岡君はクラウンと一緒に登頂した仲であり、よきパートナーであるのでこれからも彼とのつながりを大切にしたい

3年 長谷川哲也

## 谷川岳 天神尾根

メンバー L伴野達也、長谷川哲也、伊藤利信、原田裕介、吉田政隆

12/4 10:30①(残雪) 天神平スキー場

雪はあまりない。スキーヤーで混雑している。

11:30④ 熊穴沢避難小屋

登山者が多くて避難小屋の周りは混雑した。小屋の前にテント2張り分の広さ程度のスペースがある。

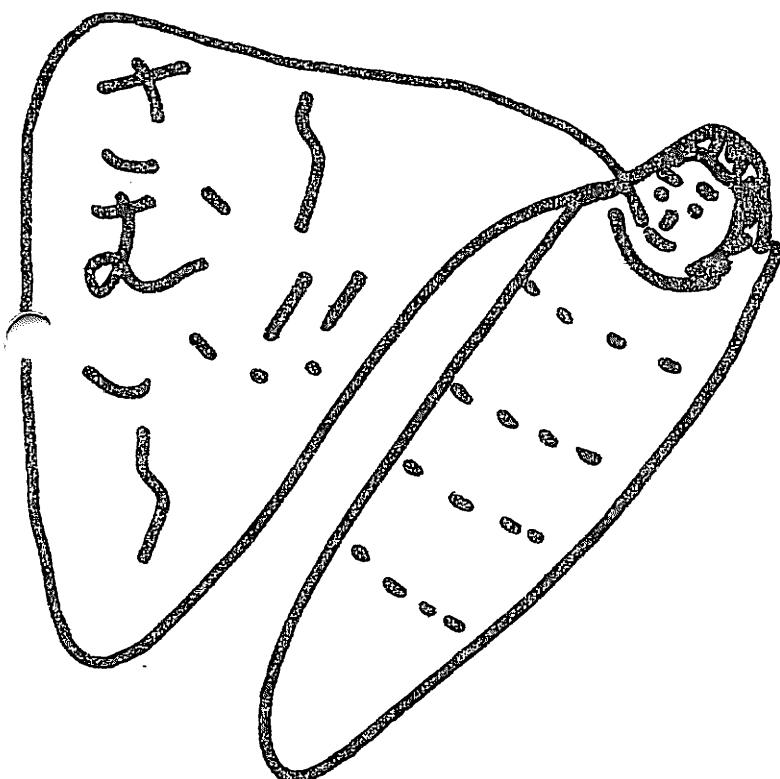
田尻沢の頭には2張りぐらい張れそうだった。

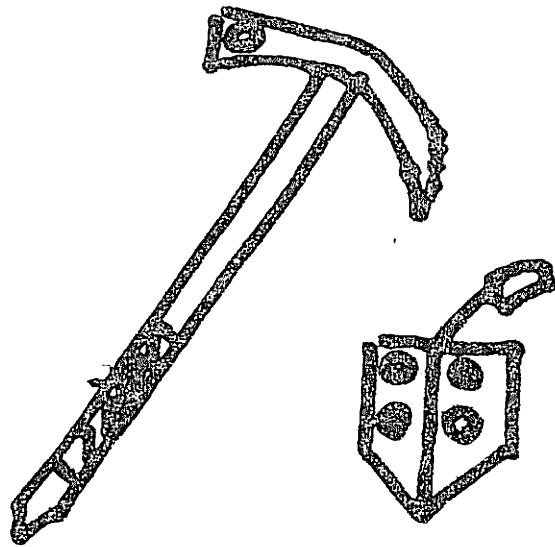
12/5 誠にすみませんが行動記録は春の報告書に載せます。

避難小屋TS～谷川岳頂上～TS～天神平スキー場 下山

夏道を通って頂上まで行けた。特に危険なところはないが、西黒尾根が合流するところの辺りがホワイトアウトしていると、下降は特にわかりにくいかも知れない。このときは、竹ポールでマークイングしてあった。

積雪は尾根の上部のほうで60cmぐらい。クラスト斜面もなかったが1年生が慣れるようにアイゼンを上部でつけた。





信州大學山岳会  
冬、報告書

FP刷 松本 1994. 1. 25.